

第5回

「議論の十字路、百万遍」

百万遍談議

かつて百万遍周辺の喫茶店では、「読書会」と称して、違う分野の学生が集まってひとつのテーマで議論をする姿がしばしば見られました。コーヒー1杯で数時間いても店の人は気にもせず、ひたすらコップにお水をついでくれたものです。
あるいは「下宿」に集まってなされた議論は、同じ下宿の他学部の人だけでなく、他大学の学生も加わって、それこそ朝まで延々と続けられたというのが茶飯事でした。

最近はコロナの影響もあり、学生同士の議論というものが影をひそめているように思います。加えてそもそも喫茶店自体がどんどん少なくなっていつています。
そこで、往時に盛んであったそんな議論の場を、「百万遍談議」として復活させようという思いから、このような企画が作られました。参加資格は、京都大学の学部学生であれば、学部や学年は問いません。

授業ではありませんので、なにかこうしなければいけないという義務はなく、単に興味があるから参加して、人の話をきき、自分の考えを述べる。それだけです。
毎回のテーマに関して、あらかじめ知識が必要となるわけではありません。唯一お願いするのは、毎回提示される「書物」あるいは「短文」を読んでくること、それだけです。

「人はこんなことを考えているんだ」ということを知るだけでも楽しいですし、さらには、自分の考えを人にきいてもらうことの楽しさも、大学生に与えられたある種の特権です。
気軽な気持ちで参加してください。

いろいろな人と人、人と言葉あるいは考えの出会いが生まれることを楽しみにしています。

今回読んできていただくのは、「ことばの力」をテーマにした文章です。
下記、申し込みフォームに記載のリンクからダウンロードして読んでください。

話題提供者 宇佐美 文理（文学研究科教授）
テーマ 「惚れ薬 ことばの力を考える」

主催：京都大学 人と社会の未来研究院
場所：附属図書館3階共同研究室5
対象：京都大学学部学生（正規生）先着8名
使用言語：日本語
費用：無料
申し込み方法：下記フォームよりお申し込みください

［お問い合わせ］
人と社会の未来研究院
「百万遍談議」担当
ifohs_team@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



京都大学



2023.4.15

【SAT.】 10:30—12:00

2023年4月15日
百万遍談議 開催報告

第5回 惚れ薬——ことばの力を考える

話題提供者

宇佐美 文理 文学研究科 教授

参加者：9名

[内訳]

2回生 4名（文学・法学・工学2）

3回生 2名（文学・法学）

4回生以上 3名（文学・理学2）

談議メモ

使用テキストは、人の気持ちを操れる「ことばの魔力を使った究極の惚れ薬」が開発されている、といった内容でした。「それを自分で飲んだらどうなるのか」という話にはじまり、「言葉を抽出するコンピュータは有限な存在だから、『究極の』はありえないのでは？」「そんなものができたら言葉はそもそも意味を失うのではないか」、あるいは「そもそも『惚れる』とはどういうプロセスなのか」から、最後には「文学をどのように読むべきか」という話まで、さまざまな議論がなされました。